

自立活動の授業づくり リーフレット

Researchが効果的な指導のポイント! 実態把握

このリーフレットは、小学校自閉症・情緒障害特別支援学級を対象とした令和5年度京都府総合教育センター特別支援教育部プロジェクト研究「特別支援学級の授業づくりー自立活動の指導を軸にー」をもとに作成しました。

自立活動の指導は、個別の指導計画等を作成し、それに基づく指導においてP D C Aサイクルを確立して適切な指導を進めていくことが極めて重要です。

一人一人のニーズに応じた自立活動の指導においては、個々の児童生徒の実態把握（Research）を的確に行い、R-P D C Aサイクルで行います。特にResearchを意識した授業づくりによって、適切な指導目標や指導内容を設定することができ、日常生活や学習場面での児童生徒の困難さの改善・克服に向けた授業づくりが可能となります。

このリーフレットでは主に、
1「実態把握は指導の要」
2「授業づくりを支える連携」
3「R-PDCAサイクルを意識した授業づくり」
について御紹介します。

実態把握（Research）に着目するとは、つまり、「子どもをよく見る・よく知る」ことです。初めて自立活動の指導に当たられる先生をはじめ特別支援学級の先生方に、必要に応じて自立活動の授業づくりの参考として御活用いただければ幸いです。



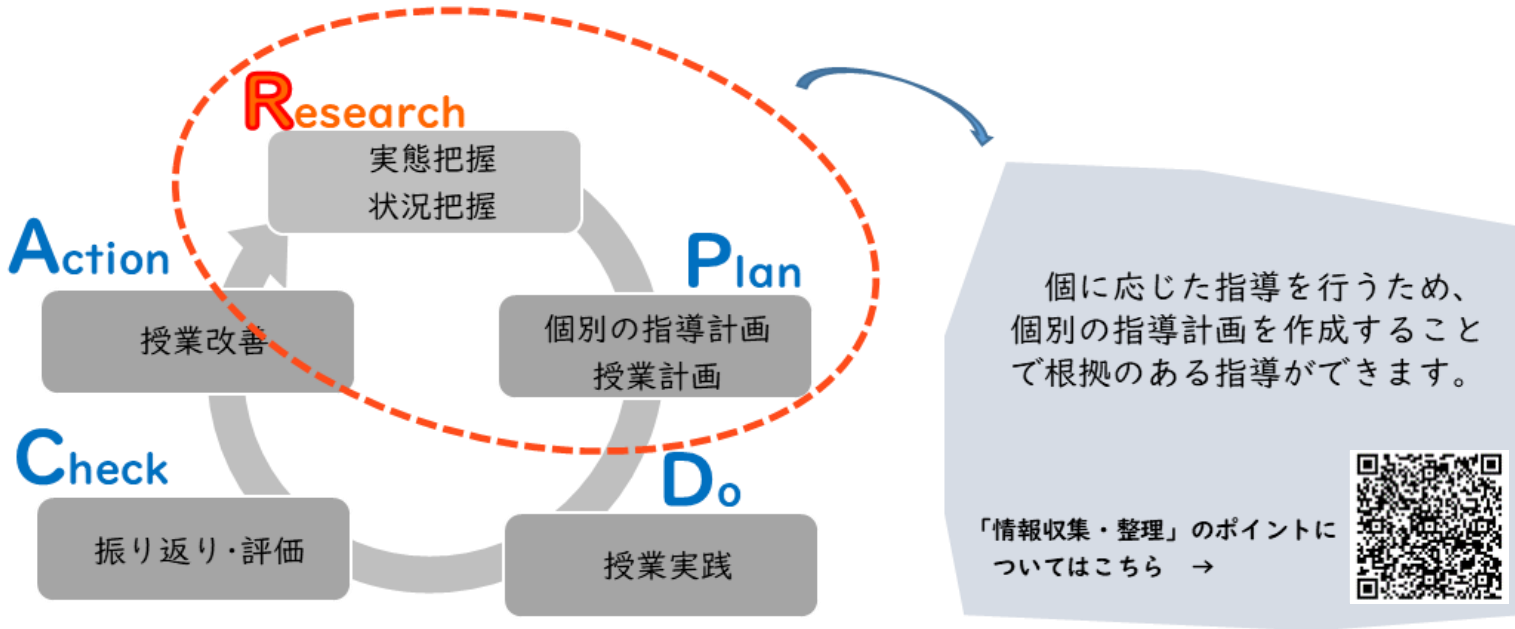
自立活動の目標等の概要については、「だいたい5分で観られる！楽々シリーズ自立活動レッスン1～3」の動画コンテンツを御活用ください。
>>>



1 実態把握は指導の要

児童生徒一人一人の実態に基づいた個別の指導計画を作成して実施する自立活動では、個々の児童生徒の障害の状態や発達や経験の程度等を的確に把握する必要があります。そのためには、児童生徒の情報を収集・整理を行います。

児童生徒本人の困難さの背景要因を推察し、その行動等の意味を考え解釈、整理することで、指導すべき課題が具体的に見えてきます。



2 授業づくりを支える連携

児童生徒の障害による様々な困難さを克服・改善する指導である自立活動では、より専門性が必要とされます。多角的・多面的な実態把握や、また個々の児童生徒の良さを生かした自立活動の授業づくりにおいて、児童生徒に関わる教員による校内連携や、特別支援学校のセンター的機能を活用することも一つの方法です。連携の目的を明確にすることで自立活動の指導に活用できる有意義な連携となります。

本研究では、府立特別支援学校の自立活動の知見を生かして、特別支援学級担任が、より個々の児童の実態や課題に沿った授業実施に向けて、年間を通じた継続的な連携のもとに改善を図りました。



学習指導要領には以下のように示されています。

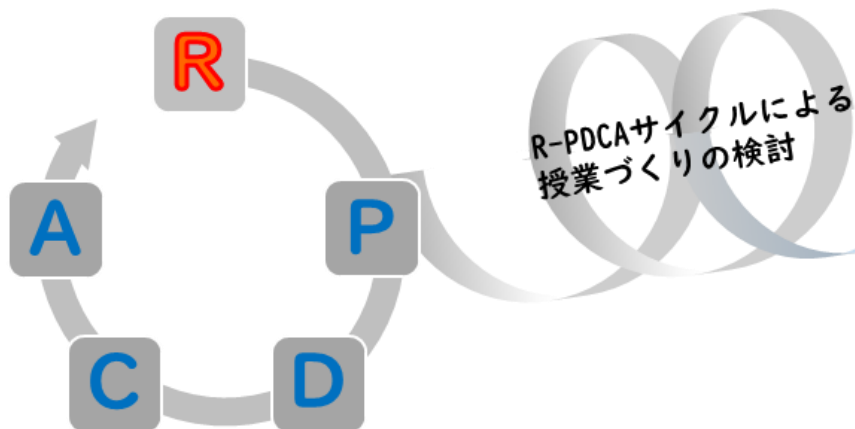
児童又は生徒の障害の状態等により、必要に応じて、専門の医師及びその他の専門家の指導・助言を求めるなどして、適切な指導ができるようにするものとする。

個別の指導計画の指導の成果が就学先等でも生かされるように、個別の支援計画等を活用して関係機関との連携を図るものとする。

3 R-PDCAサイクルを意識した授業づくり

研究協力校では、地域の特別支援学校のサポートを受け、自立活動の一連の手続きの理解を深めました。

本研究では、継続的にR-PDCAサイクルを行うことで、教員の新たな気づきや、児童を見る目が広がり、教材や活動の場の工夫、児童が主体的に取り組める教育環境の整備等の改善が見られ、児童の変容へとつながりました。



授業の改善点

教材の工夫

教師の関わり方

課題の設定

活動の場の工夫

授業進度・量

教室環境・整備

提示や指示の仕方



各校の授業改善の
実践はこちら

さいごに

本研究では、的確な実態把握と流れ図の手続きに即した課題整理に重点を置き実施しました。

研究協力校7校の実践からも、在籍する児童に応じて教員が工夫を凝らした多様な自立活動の授業がありました。

各教科等の学びの土台となる自立活動の指導を実際に行うには、自立活動の専門性が重要です。

年間を通じて専門的な知識等を身に付けるとともに実践を重ね、児童生徒の持てる力を引き出す授業づくりのために、このリーフレットを参考にさせていただけることを願っています。

さいごに、研究報告リーフレットの作成に御協力いただいた方々に深く感謝いたします。



関西国際大学
中尾繁樹 教授

年間を通じて各研究協力校を参観し、各校に応じた自立活動の授業改善への指導助言をいただきました。

Information

特別支援学級担任のための教育課程ハンドブック
平成31年3月改訂 京都府総合教育センター
>>>



インクルーシブ教育システムの推進を目指す特別支援学級の教育課程編成・実施ガイドブック
独立行政法人国立特別支援教育研究所
令和3年3月 >>>



令和5年度京都府総合教育センター特別支援教育部プロジェクトチーム

関西国際大学	教授	中尾 繁樹	
向日市立第5向陽小学校	教諭	城市 謙太郎	
	教諭	大内 典子	
八幡市立南山小学校	教諭	吉田 健悟	
	教諭	山口 亜里沙	
木津川市立州見台小学校	教頭	岡本 大	
	教諭	辻 美知子	
木津川市立南加茂台小学校	教諭	須郷 敏広	
	教諭	柴田 万貴	
南丹市立園部小学校	教諭	宅間 真美	
	教諭	瀧村 美和	
舞鶴市立余内小学校	教諭	出口 尚江	
京丹後市立かぶと山小学校	教諭	豊島 直子	
	教諭	山本 麻実	
京都府立向日が丘支援学校		京都府立丹波支援学校	
京都府立八幡支援学校		京都府立舞鶴支援学校	
京都府立井手やまぶき支援学校		京都府立与謝の海支援学校	
京都府立南山城支援学校			
京都府教育庁指導部特別支援教育課	指導主事	池嶋 俊也	
京都府総合教育センター 特別支援教育部	部長	千種 朋子	
	主任研究主事兼指導主事	長谷川 法子	
	研究員	辰巳 大雅	
	教師力向上アドバイザー	酒井 弘	
地域教育支援部	研究主事兼指導主事	森本 尚之	

令和5年度京都府総合教育センター特別支援教育部プロジェクト研究
研究報告

「特別支援学級の授業づくりー自立活動の指導を軸にー」

発行

令和6年3月

京都府総合教育センター

〒612-0064 京都府京都市伏見区桃山毛利長門西町

TEL 075-612-2953 (特別支援教育部)